

(音楽)

「音楽で生きる力を！表現する喜びを求め続ける子どもをめざして」  
—あこがれをもって、心から音楽を楽しむことのできる指導法の工夫—

大阪市立三軒家東小学校 伊藤岳洋

1. 研究主題について

平成28年度より研究主題を「音楽で生きる力を！表現する喜びを求め続ける子どもをめざして」とし、サブテーマを「—あこがれをもって、心から音楽を楽しむことのできる指導法の工夫—」として取り組んできた。

「音楽って楽しいな！」「もっともっと演奏したい！」と思える音楽の授業を模索し、「自分の表現を伝えたい！」「友達の表現の良さを感じたい！」「あの曲をもう一度聴きたい！」と思える音楽の授業を目指してきた。

「音楽が好き！」「友達と集まると自然に歌いたくなる、リコーダーで演奏したくなる」というように、「音楽」を媒体としたコミュニケーション能力を育てるには、「成功体験」が何よりも大切であり、自尊感情を高めることが求められる。主体的に学ぶ喜びを子どもたちに共感させ、感動体験の共有を通して、生涯、音楽を愛好する豊かな心を育むことをねらいとした。

2. 研究の概要

＜研究の目的＞

- 基礎的な音楽の技能を身に付け、意欲を持って音楽表現をすることで自己肯定感を高める。
- 表現の仕方を工夫し、表現する喜びを体感する音楽学習のあり方を研究し、教員の指導力向上をめざす。
- 児童が運営、参画し異学年での交流と感動体験を共有、実現できる音楽集会のあり方を追求し、表現力や意欲の向上を図る。
- 音楽活動を取り入れ、地域交流や小中連携を意識した集会活動を工夫し、生涯音楽に結びつく豊かな感性を育む。
- ICTを効果的に活用した音楽活動を模索する。

＜研究の内容＞

- 音楽科の「歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞」の領域において、「基礎的な音楽の技能」を身に付ける指導法についての校内研修をさらに深め、今年度も全員が公開授業を実施する。
- 各学級での音楽活動をもとに毎月1回実施してきた音楽集会を一層充実させ児童の自尊感情を高める。
- 各学級、学年、音楽クラブなどを軸として、音楽集会や音楽会の持ち方を工夫し、児童に達成感を味わわせるため、今年度も一層の充実に努める。
- 児童が主体的に活動し、成就感を味わえる「全校音楽集会」の進め方や選曲、プログラムの構成などについてさらに実践研究を進める。
- 大阪市小学校教育研究会音楽部や小学校音楽教育連盟主催の研修会をはじめ、授業研究会、実技研修会等に参加し、伝達講習などを通して、指導力の向上に一層努める。

- 歌唱、器楽合奏の指導法等について、校内実技研修会を実施する。
- 前年度は、音楽への思いや意図を伝えたり表現したりするための手だてとしての言語活動や ICT の活用に取り組んだ。今年度も ICT の効果的な活用法を模索する。

#### <見込まれる成果>

- 音楽表現を通して、達成感、一体感、成就感を味わうことにより、自己肯定感が高まる。
- 児童の主体的な参画による「音楽集会」を行うことにより、高学年は、参画意識が高まり、学校のリーダーとしての自覚が高まる。
- 低学年は高学年の演奏を聴いたり、「音楽集会」や「音楽会」を運営する高学年の姿を見たりすることにより、憧れをもち、手本とすることができる。
- 児童の音楽活動を学校公開や地域行事等で発表することにより、保護者、地域の学校教育への理解をよりいっそう得ることができる。
- 全市対象の総合研究 2 年次発表会に取り組むことにより、教員相互の学び合いにつながる校内研修が実施できる。

#### <音楽集会>

音楽集会は、平成 27 年度より、月に 1 回（原則第 3 木曜日）、午前 8 時 30 分から 45 分までの 15 分間、全校児童集会の年間計画の中に位置付けて実施している。したがって、司会、進行は、集会委員会とその担当の教員である。

校内音楽部で検討し、計画した「今月の歌」を、各学級で練習し、音楽集会当日に全校で合わせる。初めて合わせるときは、「練習」として位置付け、次回でより良いものに仕上げるという形で、進めてきた。1 度取り組んだ曲はレパートリー曲として、蓄積し、毎回 15 分で 2～3 曲は取り組んでいる。曲によっては、音楽クラブが様々な楽器を使って伴奏をしたり、各パートを支えたりもする。

選曲に当たってポイントにしてきたことは以下のようなことである。

- 少し手を伸ばせば届きそうな難易度であること。
- 2～3 パートに分かれているもの、あるいは、パートに分けてできるもの。
- 全員で合わせると驚きや楽しさを感じるもののできるもの。

### 3. 研究の成果と今後の課題

#### (1) 研究の成果

- 音楽科の「歌唱」「器楽」「音楽づくり」「鑑賞」の各分野を偏りなく研究するため、年度始めに話し合っ学年ごとに分野を決めたうえで、計画的に実施した。
- 「常時活動」や「共通事項」を意識した授業を考え、継続しながら積み重ねてきたことで、児童の音楽科に対する姿勢や教員の指導力が着実に向上してきた。
- 研究討議会後に実技研修会を設定し、授業に取り入れた活動内容を同じように演奏したり歌ったりする時間を設けた。これにより、教員の指導力を向上させるだけでなく、児童の立場になって考えることができた。

#### (2) 今後の課題

- 授業における ICT 機器の、より効果的な活用方法を考える。
- ここまで積み重ねてきたことを継続しながら、児童自身がさらに主体的、意欲的に活動し、表現しようとする態度を育てていきたい。